

経営比較分析表（平成30年度決算）

愛知県 愛西市

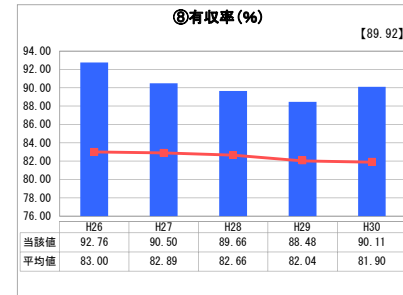
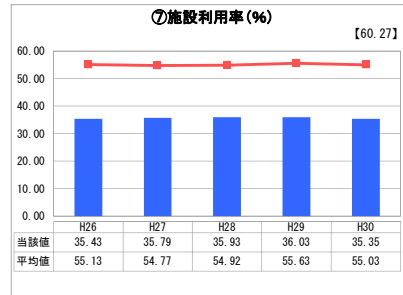
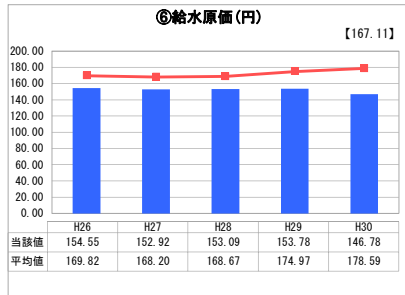
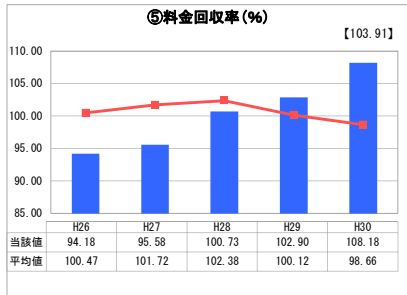
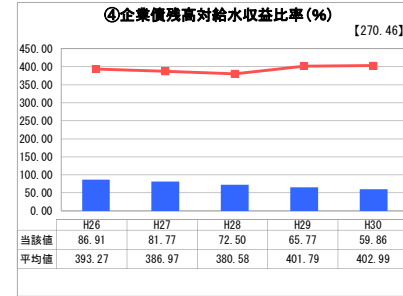
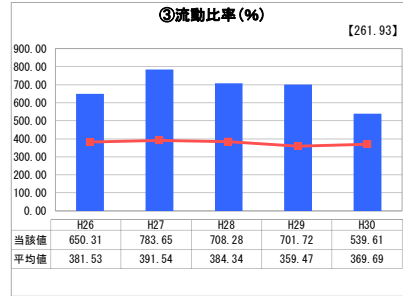
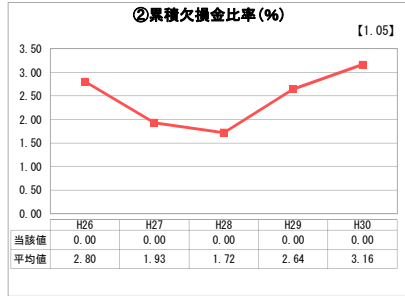
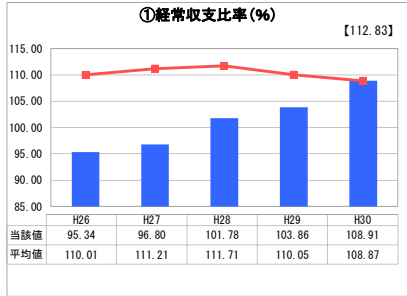
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.76	99.74	2,754	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
63,247	66.70	948.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,466	23.31	1,135.39

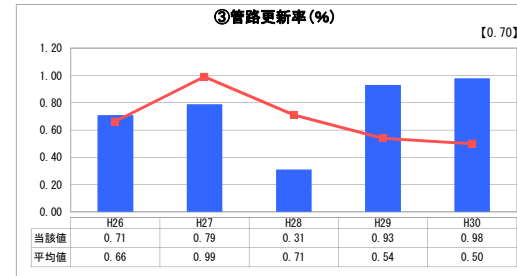
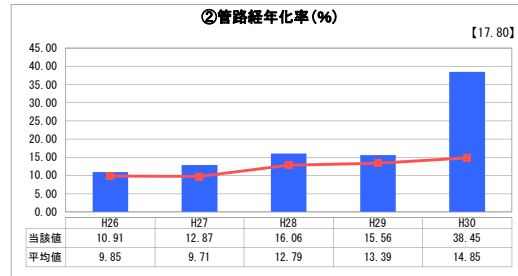
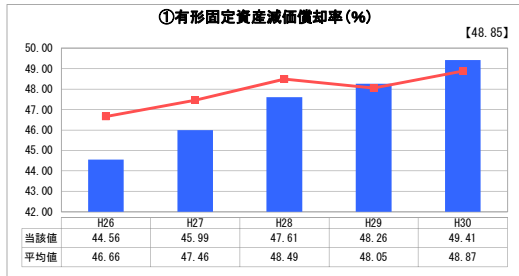
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率⑤料金回収率については、平成28年4月に平均改定率8.03%の料金改定を行い、給水収益が増加し、また職員数の減等により費用が減少したため、前年度に引き続き健全経営となっている。②累積欠損金比率③流動比率については、現状は低い数値であるが、今後の施設改修等により費用の増大も考えられ、それに伴い④企業債残高対給水収益比率についても給水収益に対し企業債残高の割合が高くなる懸念がある。⑥給水原価については、⑤同様に費用が減少したことにより、効率的に給水ができています。⑦施設利用率については、水道事業開始時の計画1日最大給水量を基準に浄水場の整備が完了している関係で、現在の計画の給水量との乖離が大きくなっています。⑧有収率については、消防施設の水使用や大口径管の布設替が少なかったことが改善の要因と考える。これらの要因等を踏まえ今後、中長期的な計画が必要と考える。

2. 老朽化の状況について

類似団体と同様に施設の老朽化が進行しつつあるが、②管路経年化率が前年度と比較して大幅に上昇した。主な要因としては、下水道工事に伴う布設替等工事による更新により、耐用年数を越えた管路の更新が行うことが出来なかったことが要因と考えられる。そのため、③管路更新率は下水道工事に伴う布設替工事で改善がみられた。更新工事には莫大な資金が必要となることと、更新に関わる人材も余裕が無く事業が進められていない状況であることは変わらないため、公共下水道事業の整備工事に合わせて効率的に水道施設の更新工事を行い、老朽管の布設替工事もあわせて取り組む必要があると考える。

全体総括

投資資金確保も含め平均改定率8.03%増の水道料金改定を行い経営の健全化に向け、取り組みを段階的に行っているが、施設の老朽化も進み、施設の更新・耐震化も進めていく必要性もより重要である。今後給水人口の減少が懸念される中、ライフラインとしての水道水を安定供給できるよう水需要の動向を踏まえた上、施設のダウンサイジングも考慮しながら令和2年度までに経営戦略を策定する予定であり、計画的に施設を更新整備することが必要とされている。